

製品名: ARG1 (7H3) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe07109**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,IP,IF-P
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:500,IP 1:10-1:100,IF-P 1:200-1:500
分子量	35kDa

抗原情報

遺伝子名	ARG1
別名	ARG1; Arginase-1; Liver-type arginase; Type I arginase; Arginase liver; Liver Arginase;
遺伝子 ID	383.0
SwissProt ID	P05089
免疫原	ヒト肝臓アルギナーゼの合成ペプチド

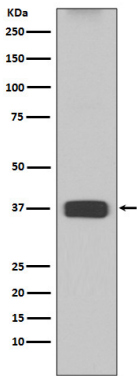
背景

アルギナーゼは、アルギニンをオルニチンと尿素に加水分解する反応を触媒します。哺乳類アルギナーゼには少なくとも2つのアイソフォーム（I型とII型）が存在し、組織分布、細胞内局在、免疫学的交差反応性、および生理学的機能が異なります。この遺伝子によってコードされるI型アイソフォームは細胞質酵素であり、尿素回路の構成要素として主に肝臓で発現します。尿素回路の主要成分であるL-アルギニンは尿素とL-オルニチンに変換され、さらにプロリンとポリアミドへと代謝されます。これらの代謝物はそれぞれコラーゲン合成を促進し、細胞増殖に不可欠な生体エネルギー経路を促進します。尿素回路は主に肝臓で行われ、腎臓でも一部行われます。

研究分野

-

画像データ



マウス肝臓溶解液中の ARG1 発現のウェスタンブロット分析。